

2015年度 自己点検・評価【国際学研究科】

C票

<目標、行動計画>策定シート

作成日:2016年1月21日

責任者	国際学研究科委員長	作成部局	国際学研究科
-----	-----------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

国際学研究科の継続的発展

(狙い内容)

前期課程において毎年度安定した数の入学者を受け修了者を輩出し、グローバルに活動する企業または国際機関に高度専門職として就職させる。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

前期課程は毎年度安定した数の学生が入学し、できるだけ2年間で修了する。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

本研究科は未だ歴史が浅いので、学年が途切れせない(在籍者ゼロの学年を作らない)ことが伝統を醸成していくために不可欠である。また、毎年、コンスタントに学生を受け入れ標準修業年限で修了させていることを示すことが、学外からの注目度を高めるとともに、将来の学生応募数の維持にもつながる。

3. 達成度評価

評価指標	毎年度の前期課程入学者と修了者の数	評価尺度	A: 6名以上の入学者と修了者 B: 3名以上の入学者と修了者 C: 1名以上の入学者と修了者 D: 入学者と修了者がゼロ
------	-------------------	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
入学者2名、 修了者2名の予定。	入学者2名、 修了者3名の予定。	入学者4名、 修了者2名。	入学者4名、 修了者4名。	入学者6名、 修了者4名。	入学者6名、 修了者6名。	入学者6名、 修了者6名。

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

国際的課題に取り組む研究者の育成

(狙い内容)

前期課程修了者で海外の博士課程に進学した学生、または本研究科後期課程修了者の中から大学・研究機関・行政機関・企業で調査研究職として活躍する人材を輩出する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

後期課程からも学位取得者(または前期課程修了後に海外の博士課程に進学して修了したもの)を輩出し、大学・研究機関・行政機関・企業において調査研究職に就かせる。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

本研究科は未だ歴史が浅いので、学年が途切れせない(在籍者ゼロの学年を作らない)ことが伝統を醸成していくために不可欠である。また、毎年、コンスタントに学生を受け入れ標準修業年限で修了させていることを示すことが、学外からの注目度を高めるとともに、将来の学生応募数の維持にもつながる。

3. 達成度評価

評価指標	毎年度の後期課程入学者と修了者の数	評価尺度	A: 後期課程修了者が調査研究職として就職した。 B: 後期課程修了者は出たが研究者として就職しなかった。 C: 後期課程修了者が出なかった。 D: 後期課程在籍者がいなかった。
------	-------------------	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
入学者1名。(社会人学生なので研究者でなく海外業務を担当する大学職員という高度専門職に就く予定)	進学予定者1名。	入学者1名、 修了者1名。	入学者1名、 修了者1名。	入学者2名、 修了者1名。	入学者2名、 修了者1名。	入学者2名、修了者2名。 (後期課程修了者から調査研究職への就職者を輩出する)